

第8回 教育データ利活用分科会 議事録 p

日時：2020年3月15日（日）11：00～12：30

場所：早稲田大学早稲田キャンパス 7号館 209 教室

出席者（敬称略）：美濃導彦委員長，楠見孝副委員長，谷口倫一郎幹事，緒方広明幹事，乾健太郎，柴山悦哉，菅原ますみ，西田眞也，前田香織，松下佳代，宮地充子

4. 配布資料

資料1：公開シンポジウムについて

資料2：マスタープラン2020について

資料3：提言への幹事会の意見に対する修正について

5. 議事

(1) 資料1により緒方幹事より同日午後から行われる公開シンポジウムの進行等について説明がなされた。

(2) 資料2により、マスタープラン2020の結果が報告された。

(3) 資料3により、緒方幹事から、先日の幹事会からの意見をうけて、提言をどのように修正中であるか、説明があった。議論を重ねた結果、以下の点について修正を検討することとなった。

- ① 名寄せについては、一旦国が収集して匿名化する方式をとりやめ、各教育機関や教育委員会が匿名化した後、国が匿名化されたデータを収集するように変更する。
- ② 生涯の教育データの収集をとりやめ、小学校から大学までに変更する。
- ③ この提言について、法律の研究者の意見を聞く。
- ④ 教育データの管理方法は、医療のデータの管理方法を参考にする、程度にとどめておく。
- ⑤ 修正後の内容に適するように、提言のタイトルを変更する。
- ⑥ 回答文の冒頭で、この提言の趣旨を明確にする際、教育学分野のこれまでの研究に、もっと配慮した書き方に変更する。また、本文も同様にする。
- ⑦ 全体的に、方向性を決めつけたような言い方があるので、選択肢を出して決めつけない、後で考えるようにするようなトーンにする。特に、6ページの表3の説明文を検討する。また、この提言では、8ページにおいてデータの悪用を防ぐための歯止めについても、ある程度、提案している点を説明する。
- ⑧ GIGAスクール構想などの、昨今の状況を踏まえて、今回は、提言を公開するのを急ぐので短期的な議論で公開可能なものにする。長期的な議論が必要なものは、将来（例えば25期に）議論していく方向とする。

